

大豆加工食品への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

2月3日の節分には、一年の無病息災を願い豆まきをした御家庭も多いのではないのでしょうか。昔から、節分など季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると考えられ、それを追い払うために豆をまくといわれています。ちなみに、豆まきに使う豆は地域によって炒り大豆、落花生などの違いがあるようですが、家計調査ではどちらも「他の菓子」に分類されます。

そこで今回は、大豆にちなんで、豆腐、納豆、みそやしょう油などの大豆加工食品への支出についてみてみましょう。

増加傾向にある納豆への支出

1世帯当たり的大豆加工食品への支出金額の推移を、価格の変動分を除き平成12年を100とした実質金額指数で見ると、「納豆」への支出は近年の健康志向の影響もあり、平成14年以降、12年に比べ10%以上増加した水準で推移しています。一方、その他の大豆加工食品への支出は、平成13年以降減少傾向にあります（図1）。

大豆加工食品への支出は24年間で減少

次に、昭和60年と平成20年の大豆加工食品の1世帯当たり年間支出金額を、価格の変動分を除いた実質金額で比較すると、「納豆」を除くすべての品目で減少しており、大豆加工食品全体では平成20年は昭和60年に比べて8割弱の支出となっています（図2）。

みその購入数量の多い東北地方

最後に、「みそ」と「しょう油」の世帯員1人当たり年間購入数量（平成20年）を、全国平均を100として地方別にみると、「みそ」は東北が全国平均の約1.7倍と最も多く、次いで北海道（約1.3倍）、北陸及び九州（約1.2倍）となっており、近畿が0.6倍と最も少なくなっています。

一方、「しょう油」は四国及び東北が1.2倍と最も多く、次いで北海道及び九州（約1.1倍）となっており、沖縄が0.6倍と最も少なくなっています（図3）。

図1 大豆加工食品の実質金額指数の推移

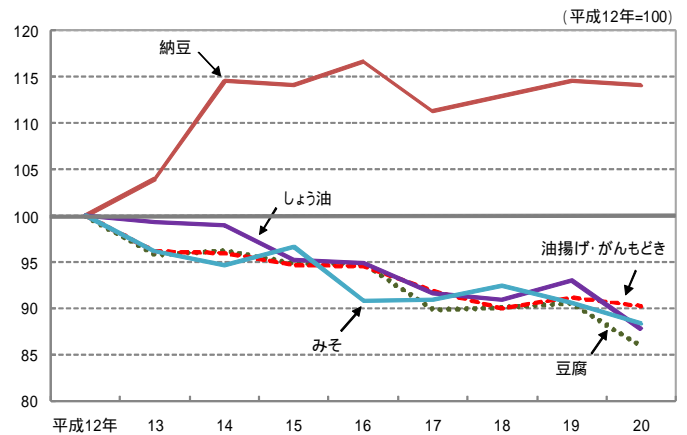


図2 大豆加工食品の年間の実質支出金額 (昭和60年・平成20年)

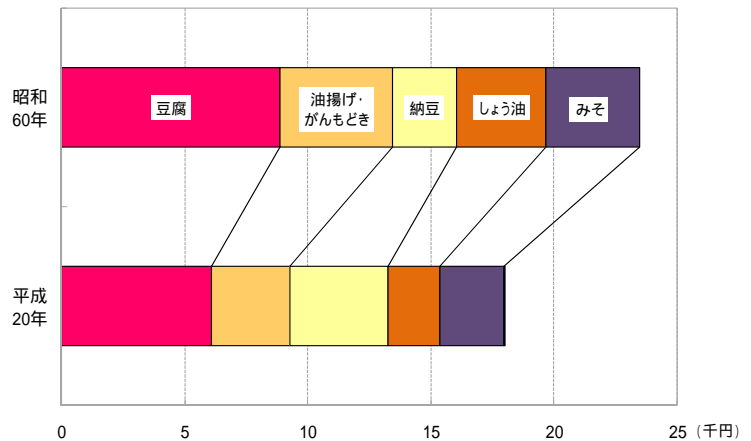


図3 世帯員1人当たり年間購入数量 (平成20年)

